



くすり箱

発行
 桐生厚生総合病院 薬剤部
 発行責任者 田村 潤一
 編集担当者 亀岡 桐代

2008年3月発行

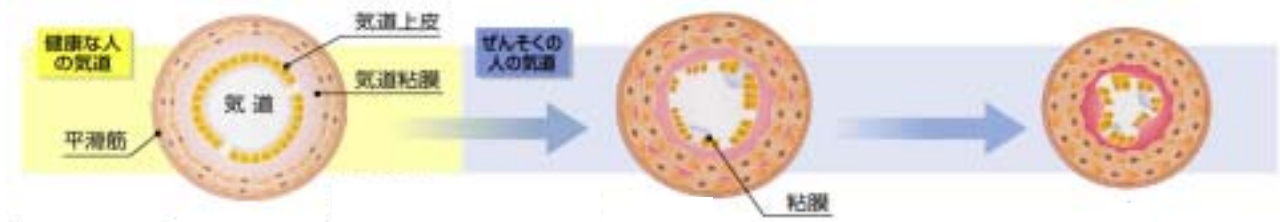
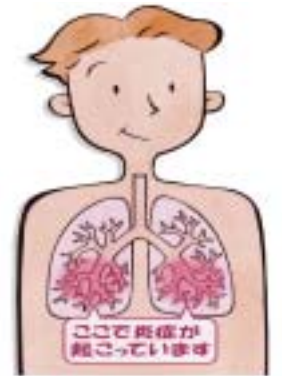
第7回目のテーマは、“気管支喘息”についての紹介です。

ぜんそく 喘息とは...

ぜんそくとは、慢性的に気道(気管、気管支などの空気の通り道)に炎症が起こる状態を言います。炎症は、タバコやアレルギー(ほこり、ダニ、ペットの毛など)、ウイルス感染などが刺激となって起こります。精神的なストレスが刺激となることもあります。

こうして炎症が起こると、気管支平滑筋が収縮し、気道粘膜が腫れ、粘液が出てきたりすることにより、気道が狭くなり、ぜんそく発作を起こします。

発作の時には、激しい咳をしたり、呼吸をするたびに「ゼーゼー」「ヒューヒュー」という音が鳴ったりします。



このようにぜんそく患者さんの気道は、炎症を起こして過敏になっているのです。

毎日の生活の中で心掛けることは...

ぜんそく発作を防ぐには、生活環境を見直して改善することが大切です。日々の生活のなかで発作の原因となる物質や原因となる行動を知り、それらを自分から遠ざけることはもちろん、部屋を清潔に保つなど、ぜんそくを悪化させない環境を作るよう心掛けましょう。



- 規則正しい生活をしましょう
- タバコはやめましょう
- アルコールは控えましょう
- 風邪には注意しましょう
- ペットは家の中で飼わないようにしましょう
- 運動は無理せず自分のペースで十分に換気をしましょう
- うがい、手洗いを励行しましょう



ぜんそく治療に使われる薬について...

ぜんそくの治療薬は色々な方法で使用されます。それぞれ、患者さんの状態にあった薬を使用させていただきます。使用方法も薬によって異なりますので、わからないことや不安なことがあれば、かかりつけの医師や薬剤師に相談してください。

* 薬の種類

のみぐすり・注射薬

のみぐすりや注射薬はからだ全体に行きわたります。
炎症を起こしている気道以外にも薬が行きわたることになります。



貼り薬

貼ることで、薬の成分を皮膚から吸収し、全体に行きわたります。気道を広げることでせき、たんのからみや息切れなどの症状を和らげる作用があり、1日1回の貼り替えで効き目が持続する薬です。

吸入薬

吸入薬は炎症を起こしている気道に直接届きます。
このため、のみぐすりや注射薬より少量で、気道に集中して作用します。
吸入薬には、毎日規則正しく使う薬(発作を予防する)と、発作のときに使う薬(発作をしずめる)があります。



毎日規則正しく使う薬	発作のときに使う薬
吸入ステロイド薬(コントローラー)	発作治療薬(レリーバー)
気道の炎症を抑えて発作を予防します	狭くなった気道を広げて呼吸を楽にします
毎日規則正しく使うことで、症状の維持と改善が期待できます。症状が出ないからといって使用をやめてしまうと、また気道がだんだん狭くなり、元に戻らなくなることがありますので、自覚症状がない時も医師の指示通り正しく使しましょう。	発作のとき、または発作が起きそうなときに必要に応じて使います。 例: 気管支拡張薬(β ₂ 刺激薬、抗コリン薬等)

参考資料: アストラゼネカ「ぜんそく図鑑」等

ぜんそく治療の目標は、日常生活の見直しや、これらの薬をうまく組み合わせ、指示通り正しく使用していくことで、ぜんそくをきちんとコントロールし、健常人と変わらない日常生活を送れるようになることです。そして、これは患者さんの努力だけでなく、家族やまわりの人々の理解と協力、医師との連携により、かなえられるものです。

ぜんそく治療を充分理解し、目標に向かってぜんそくと上手につき合っていきましょう。

今回は、“小児への薬の与え方について”のテーマで、

2008年6月発行予定です。

